

1. 件名：大型廃棄物保管庫の耐震評価の考え方についての面談
2. 日時：令和4年9月29日（水）13時30分～15時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
新井安全審査官、高木係長
高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
本社 担当1名（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力発電所 担当16名（うちテレビ会議システムによる出席10名）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、令和3年9月8日の第30回原子力規制委員会資料を踏まえて、現在耐震評価及び設計を見直し中の大型廃棄物保管庫について、以下のとおり説明があった。
 - 保管架台の耐震設計方針について
 - 保管架台への使用済吸着塔の格納について
 - 保管架台の材料物性および断面特性について
 - 保管架台の耐力評価（評価条件）について
 - 保管架台と使用済吸着塔の相互作用について
 - スケジュールについて
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、主に以下のコメント等を伝えた。
 - 保管架台の耐震解析において、JEAG4601 原子力発電所耐震設計技術指針や一般工学的な解析手法から変更している点（例えば、使用済吸着塔は静置するだけで固定しないので地震時の挙動が不明確であること、保管架台の耐震評価において、設計引張強さ（Su）を基準として許容応力度の設定をしていること、床応答加速度を使用済吸着塔と保管架台の衝突加速度に設定していること等）について、その適用性・妥当性及び変更理由を整理して説明すること。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：大型廃棄物保管庫の使用済吸着塔保管架台耐震評価（Ss900）について

以上